

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	球技大会	担当課	社会文化課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	850 千円	850 千円	850 千円
事業概要	町民が各種のスポーツ行事に参加できる機会を提供し、町民がスポーツに親しみ健康と体力の増進を図り、明るく生き生きとした生活の向上と地域活性化を目指し開催する。		
(1)対象	<ul style="list-style-type: none"> ・竹富町に住民登録を有する者。 ・アマチュア競技者。 		
(2)目的	町民が各種のスポーツ行事に参加できる機会を提供し、町民がスポーツに親しみ健康と体力の増進を図り、明るく生き生きとした生活の向上と地域活性化を目指し開催する。		
(3)事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール ・ソフトバレーボール ・グラウンドゴルフ 		
(4)成果目標	西表の大原中学校を主会場に三会場で実施し、町内の各公民館から選手及び、応援団が参加することにより、スポーツを通して町民相互の親睦を深める機会とする。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 町民が各種のスポーツ行事に参加できる機会を提供し、町民がスポーツに親しみ健康と体力の増進を図り、明るく生き生きとした生活の向上と地域活性化を目指し毎年開かれている事業である。町民が一堂に会する機会が少ない本町に於いて、毎年開催している本球技大会が、スポーツを通して町民相互の交流を深める良い機会となっている。		
	【課題等】 ① 毎年競技力は向上し、スポーツに親しみ健康と体力の増進を図ることは浸透してきたが、高齢者向けの種目の選定と多くの町民が参加できる種目の選択が必要とされる。		
B			
外部評価	・町民が一堂に会し、球技大会を通して交流する場なので、今後、さらに内容を充実させて継続していただきたい。		
B			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	やまねこマラソン大会	担当課	社会文化課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	2,500 千円	4,900 千円	2,500 千円
事業概要	全国各地において日頃から健康ジョギングで体力づくりに励んでいるスポーツ愛好者を迎え、「西表島の大自然とのふれあい」を提唱し、さわやかな汗で健康と体力増進及び青少年の健全育成を図るとともに、スポーツイベントによって交流の輪を広げ、地域の活性化を図り本町のさらなる発展を目指す。		
(1)対象	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3km(八重山郡内の中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女) 		
(2)目的	日頃から健康ジョギングで体力づくりに励んでいるスポーツ愛好者を迎え、「西表島の大自然とのふれあい」を提唱し、さわやかな汗で健康と体力増進及び青少年の健全育成を図るとともに、スポーツイベントによって交流の輪を広げ、地域の活性化を図り本町のさらなる発展を目指す。		
(3)事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3km(中学校男女) ・ 10km(16歳以上男女) ・ 23km(16歳以上男女) 		
(4)成果目標	今年で第26回を数える大会であり、全国的にも知名度の高い大会である。出場選手に満足してもらえるよう、コースの安全性を含め職員、地域ボランティアを動員して大会の実施にあたる。また、本大会に欠かせない、ふれあいパーティーの実施も地域の各種団体と連携をとり、地域活性化に資する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 本大会で、26回を数える記念大会となり、本町に於ける一大スポーツイベントとなっている。1,232名の参加申込があり、出場者1,063名、完走者1,038名、完走率97.6%という非常に高い完走率を記録した。競技後のふれあいパーティーも好評で、選手だけでなく子供から高齢者まで大勢の人が楽しめるイベントである。 ② 本大会は、土曜日開催の大会と事前から町のホームページやマラソンガイド等広く紹介するなど、県内外の参加者や宿泊需要は大きく地域の経済効果にも寄与している。		
	A	【課題等】 ① 毎年、県内外から多くの参加があるものの、会場及び宿泊施設のキャパシティに限界がある。また、冬場の開催であることから、船便が大原航路となる場合があることから、選手の移動をいかにスムーズに行えるかに苦慮している。	
外部評価	・八重山を代表する大会として定着していることは、高く評価できる、今後も安全安心第一で取り組んでもらいたい。		
	A		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	国土交通大臣杯 全国離島交流中学生野球大会	担当課	社会文化課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円
事業概要	島の未来を担う少年少女たちが野球を通して幅広い”交流”をはかり、友情を育むとともに夢と希望と勇気をもつことの大切さの実感、郷土を思う誇りと心を醸成し、島の活性化、人づくりに資すること。		
(1)対象	竹富町立中学校(選手18名)		
(2)目的	地理的環境から島外との交流機会の少ない全国の離島中学生が一堂に会し、野球を通じて「島」と「島」の交流を図ることにより、新たな人間形成や健全な青少年の育成を促進することで、将来を通じた離島地域の振興に寄与することを目的とする。		
(3)事業内容	野球大会・交流試合・さよならパーティー		
(4)成果目標	離島甲子園に出場できることに感謝の気持ちを忘れず、大好きな野球ができる喜びを感じながら、元気よく伸び伸びプレーし、離島中学生との交流の輪を広げる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① チーム名「西表ヤマネコ・ティダボーイズ」 本大会は、鹿児島県種子島で開催され、本町中学生10名が参加した。4度目の出場となり、念願の初勝利を目指すも、惜しくも勝利はできなかったが、日頃味わうことのできない緊張感のなか、試合に取り組めた。試合後には、プロ野球OB会による「野球教室」や「さよならパーティー」が行われ、プロのレベルを肌で感じ、また他チームとの交流も図られ、新たな体験となり財産となった。		
	A	【課題等】 ① 竹富町代表として出場しているが、現状は大原中と船浦中の2校のみ参加している。他の離島でも野球に興味はあるが、野球をする環境がない中学校もある。その学校の生徒も参加できるような取り組みが課題となる。	
外部評価	・野球を通して全国の離島中学生が一堂に会し交流できたことは、勝敗はもとより大きな成果が得られたものだと思う。また、プロOBの方の指導を目の当たりにして得た感性は本事業の目的を達成したと考え、将来期待したい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	文化財の美化・保全（一括交付金）	担当課	社会文化課
事業費	29 年度実績額	30 年度実績額	R1 年度予算額
	2,800 千円	2,789 千円	3,190 千円
事業概要	指定文化財の美化・保全		
(1) 対象	竹富町内の国指定文化財、沖縄県指定文化財、竹富町指定文化財		
(2) 目的	指定文化財の利活用を図るために美化・保全を行う。		
(3) 事業内容	文化財の指定地において、雑草や雑木の除去作業等の美化・保全を行い、見学者が利用しやすい環境を整備する。		
(4) 成果目標	地域の文化財愛護の意識高揚が期待されるとともに、指定文化財等が生涯学習の場として活用されることや、来訪する観光客の満足度が高まることを期待する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 沖縄振興特別交付金事業により、町内各地に所在する文化財の美化・保全事業として清掃を行った。 ○ 竹富島⇒小城盛、西棧橋、蔵元跡、新里村、ミーナ井戸、トゥンナ井戸 ○ 西表祖納⇒大竹祖納堂儀佐屋敷跡、慶来慶田城翁屋敷跡、大平井戸 ○ 鳩間⇒東井戸(アンヌカー)、鳩間中森 ○ 波照間⇒下田原城跡、シムスケー、コート盛		
	【課題等】 ① 場所によっては高所等があるため重機や資機材使用の必要がある。		
B			
外部評価	・対象の文化財を町民・地域の方々がどれくらい知っているのか、その由来や歴史、生活等、学校教育や各種団体教育の中にも取り入れる必要があると考えられる。先人たちの生き抜いた証を通して、昔と今のつながりを実感し文化財愛護の意識の高揚がより図られるものと期待する。		
	B		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	埋蔵文化財の保護	担当課	社会文化課
事業費	29 年度実績額	30 年度実績額	
	259 千円	498 千円	
	R1 年度予算額		
	128 千円		
事業概要	埋蔵文化財の調査及び諸開発に伴う事前調整や指導		
(1) 対象	周知の埋蔵文化財及び不時発見の埋蔵文化財		
(2) 目的	地中に刻み込まれた文化財である埋蔵文化財は、諸開発によって失われるおそれが高いため、分布状況や保存状況等の情報を把握しておくために必要な調査等を行う。		
(3) 事業内容	諸開発事業に伴う埋蔵文化財の有無確認調査や、必要な措置がある場合はその指導を行ったり、記録保存の必要な埋蔵文化財や重要な遺跡については、発掘調査を行うことによってその埋蔵文化財の保護を図る。		
(4) 成果目標	埋蔵文化財の保護が後手にまわらないよう、適時対応するとともに、これまでの調査成果資料の整理を進める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 周知埋蔵文化財包蔵地の試掘調査及び範囲確認を実施した。(とうどうまり浜)		
	【課題等】 ①発掘調査及び出土品等の資料整理、報告書作成についても依然追いつかない状況が続いており、大きな課題となっている。 ②資料整理室が小さいため出土品等の遺物が今後納まりきれない。 ③専門員がいないため調査が調査等に遅れがある。現在は専門員資格保持者を役場より派遣依頼をし対応している。		
B			
外部評価	・埋蔵文化財の発掘と保全保存への重要な事業だと考える。今後より一層の取り組みに期待する。		
B			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	伝統的建造物群保存地区の景観保全	担当課	社会文化課
事業費	29 年度実績額	30 年度実績額	R1 年度予算額
	10,961 千円	19,397 千円	9,303 千円
事業概要	伝統的建造物群保存地区における修理や修景及び現状変更行為に対する許可や指導等		
(1) 対 象	竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区		
(2) 目 的	重要伝統的建造物群保存地区(昭和62年4月28日)の選定を受けた竹富島の集落景観を、その価値を維持するために必要な事業を行う。		
(3) 事業内容	竹富島の集落景観を構成する建造物等のうち、歴史的な景観価値を有する保存物件の保存修理工事の補助や、修景が必要な物件の修景工事を補助することによって、集落景観の保全を図る。		
(4) 成果目標	老朽化の進む保存物件の修理を進めるとともに、現状変更行為に対して適宜指導を行い、景観を向上させる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①竹富町重要伝統的建造物群保存地区・保存対策費補助事業として、屋根赤瓦葺き板壁張りの保存物件2件と5件(主屋3件、トーラ1件、付属舎1件)の修景を行い補助金の交付を行った。 ②年度内に3回の伝建審議会の開催を行うことができた。 ③台風の影響や経年劣化による保存物件の瓦ズレ等があったこともあり、修理の申請があった。		
	B	【課題等】 ①保存修理に必要な保存物件が多数残されているが、所有者本人の負担も大きい事が支障となっている。 ②台風や大雨などにより保存物件に被害があった場合、国庫補助の補助金交付までに、申請から工事着工まで約2年が掛かる。2年の間、被害にあった物件を放置しておくことは、被害の拡大に繋がり、保存物件の消失にも繋がりがねないため、迅速な修理措置が必要である。国庫補助の補助金交付までの繋ぎとして、町独自の補助の仕組み等を検討する必要がある。 ③集落外にあたる景観形成保全ゾーンでは、複数のリゾート建設の現状変更が提出されている。保全ゾーンは集落内とは異なり届出制のため、教育委員会では厳しい対応をすることができず、問題になるケースがある。	
外部評価	・課題解決のために専門職員の配置を検討していただきたい。また、町独自の補助の在り方を含め景観保全向上に努めていただきたい。		
	B		

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	伝統文化活動の推進	担当課	社会文化課
事業費	29 年度実績額	30 年度実績額	R1 年度予算額
	2,750 千円	2,750 千円	2,750 千円
事業概要	伝統文化の保存と振興を目的とした団体への支援		
(1) 対 象	竹富町民俗芸能連合保存会		
(2) 目 的	竹富町内の各島々で先人から受け継いだ民俗芸能等の伝統文化を、次の世代にも変わらぬ形で継承していくために、関係団体の支援等を行う。		
(3) 事業内容	講習会や、研修会、先進地の視察研修等によって後継者の育成を図るとともに、民俗芸能の発表会を開催し、伝統芸能の振興を図る。		
(4) 成果目標	竹富町内で伝承されてきた民俗芸能を次世代に受け継いでいくため、後継者の数と質の向上を目指す。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 竹富町民俗芸能連合保存会が主催する第17回デンサ節大会及び第19回竹富町民俗芸能発表会開催補助と、団体の育成補助を行った。 ② 第17回デンサ節大会は鳩間島で開催され、屋外実施となったが、600名を越す聴衆が島に訪れ、大盛況に終わった。今回の鳩間島開催で、町内全島を一巡し、今後は上原地区での固定開催を予定している。 ③ 第19回竹富町民俗芸能発表会では、各地域の保存会が一堂に会して各地域の芸能を披露し、各保存会の親睦が図られた。今回は、青年会・子ども会による芸能の披露があり、後進の育成が実を結びつつあることを実感できる発表会となった。		
	【課題等】 ① 成果①②③について、今年度は、多くの事業があったが、継承者の確保を含め、どのように継承を図っていくのか課題は多い。ある地区では独自に祭事が途絶えないよう奉納行事等の工工四を書き起こして、芸能を継承する取組みを行っているとの報告もあり、次世代へどのように継承していけばよいのかについて、各保存会が危機感を持って取組んでいることが報告されていた。各地区保存会が一同に会する機会は少ないが、各地区の取組みや悩みを共有しあう場が必要であると感じる。 ② 成果③について、隔年の開催だが今後も継続をしていく必要がある。9月に行われた東京国立劇場公演で大きな舞台を踏んだ後ということもあり、各地区とも自信を持って披露していた。現在、各地域で地謡・踊り手等継承者の不足が課題となっているが、今回は子ども会や青年会といった若い世代による発表もあり、継承についての明るい兆しも見えた。 ③ デンサ節大会は、鳩間島初開催となったが、町内外から多くの聴衆が訪れ、関心の高さを窺い知ることができた。大会開催は地域の活性化へも繋がるものと思われる。次年度からは、上原地区での固定開催が予定されているが、今後大会を長く継続して行くに当たり、運営方法や地域の受け入れ態勢等について検討していく必要がある。		
A			
外部評価	・内部評価の課題を解決できるよう予算確保を含め対応していただき、次の世代にしっかり受け継がれていくことを期待する。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	芸術文化活動の振興	担当課	社会文化課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	3,383 千円	6,590 千円	1 千円
事業概要	芸術文化公演等の実施や芸術家の派遣		
(1) 対象	町内の児童生徒、一般町民		
(2) 目的	芸術文化に触れる機会の少ない町内の学校、公民館で公演を行い、児童生徒及び町民の感性を高める事に寄与する。		
(3) 事業内容	各種の派遣公演についての情報を町民や町内の小中学校へ周知し、希望のあった地区のホールや学校での公演を実施する。		
(4) 成果目標	学校からの希望に応じて実施する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ①平成30年度「文化芸術による子供の育成事業(芸術家巡回事業)」で、波照間小中学校と上原、西表、白浜小学校合同開催で巡回公演の実施があった。 ②平成30年度「文化芸術による子供の育成事業(芸術家派遣事業)」で、大原小学校・大原中学校で日本サロンコンサート協会によるクラシック演奏会と指導の実施を行った。 ③平成30年度沖縄県組踊等教育普及事業として、波照間小中学校で「執心鐘入」の組踊り鑑賞会を行った。 ④平成30年度沖縄県文化芸術創造発信力強化支援事業補助金を活用し、竹富町制施行70周年記念「地域クラシックコンサートin竹富島」を実施した。		
	A	【課題等】 ①現在は、沖縄県や文化庁事業に応募をして採択された場合に、芸術家等の公演を行ってもらう形であるが、今後は竹富町独自の企画について検討が必要と思われる。 ②学校を通して行う事業や、各普及事業では子供向けのワークショップを行っているが、成人向けのワークショップを行ってほしいという声があがっていた。今年度は沖縄芸術大学によるワークショップが波照間島で開催され、子供から大人まで琉球舞踊や機織、焼き物等の体験を行うことができた。 ③学校での公演事業については、芸術文化を担当する先生により応募の有無が決まってしまうため、芸術鑑賞の機会がないまま卒業してしまう子ども達がいることが懸念される。多くの学校で鑑賞の機会を持てるように、先生方への啓発が必要である。 ④文化施設が限られており、芸術に触れる機会を各島均等に持つことが難しいため、文化庁事業等の公演や、組踊公演の際に地域住民への声かけをお願いするなど、学校とも協力をして幅広い芸術文化に触れる機会を設けられるように検討が必要である。	
外部評価	・プロの芸術家の作品・演奏等に触れることにより子供や町民の感性がより豊かになると期待できる。内部評価の課題等の解決と、今後とも本事業を進めていただきたい。		
A			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	町史編集事業	担当課	社会文化課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	8,364 千円	1,655 千円	6,369 千円
事業概要	竹富町史「資料編」の発刊、『竹富町史だより』の発刊。		
(1)対象	竹富町民、一般人、研究者。		
(2)目的	竹富町の先人たちが築いてきた特色ある町の歴史や自然を島々の個性を際立たせて位置付けながら、編集・発刊を行うこと。それにより町民一人ひとりのみならず、竹富町の先人の顔を思い浮かべることができる親しみやすいものとする。これらが島のかげがえのない宝、共有財産として後世に引き継ぎ、豊かな町(島)づくり、人づくりに資することを目的とする。		
(3)事業内容	竹富町史刊行物の編集・発刊。		
(4)成果目標	地域を知るための基礎資料として親しまれ、かつ学術的にも信頼される町史編集事業。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	<p>【成果】</p> <p>① 平成30年度竹富町史編集事業においては、「島じま編」の基礎資料とすべく、『竹富町史 第11巻 資料編 新聞集成VII』を刊行する予定であったが、見通しが甘く、校正後に収録記事量を変更したため、それに伴って附属論文やエッセイの内容も変更せざるをえなくなり、年度内の刊行が遂げられなかった。その結果、印刷・製本について、令和元年に改めて契約をし直すことになった。</p> <p>② 『竹富町史だより』は町民を対象とした機関誌である。平成30年度は〈第42号〉〈第43号〉を刊行することができた。前者は、9月開催の竹富町制70周年記念公演「竹富町 島々の民俗芸能 世乞い」(東京・国立劇場)で演じられた演目を中心に解説し、本公演のパンフレット代りの役割も果たした。後者は投稿原稿を中心に構成し、読者の広がり、それに伴う竹富町の歴史と文化への関心の高さを物語るものとなった。</p>		
	C	<p>【課題等】</p> <p>① 『竹富町 第11巻 資料編 新聞集成VII』について、平成30年度の刊行が実現できなかったことが、大きな反省である。その主な原因として、全体的に発刊予定が遅れていることが挙げられる。「新聞集成VII」は、当初予定していた収録記事数が多くなり過ぎ、最終的に1年分の記事を割愛することになった。それに伴って収録論文との整合性を整えるのに時間を要した。</p>	
外部評価	<p>・目的に掲げたことを推進できるよう、内部評価の課題解決に取り組んでください。</p>		
C			

事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学校等施設の維持管理	担当課	総務課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	14,843 千円	8,902 千円	13,822 千円
事業概要	学校施設等の修理・修繕及び維持管理上必要な施設の整備		
(1)対象	竹富町立幼稚園・小中学校(交流センター)・共同調理場及び教員宿舎		
(2)目的	学校施設等の中には、経年劣化や自然災害等によって園児及び児童生徒の安全・安心が失われるおそれがあるため、修理や修繕等の整備を行い、学校環境の安全・安心を図る。		
(3)事業内容	学校施設等の現況を調査し、破損箇所や腐食した箇所を修理・修繕し、安全・安心な学校環境の維持・管理。		
(4)成果目標	年次的に学校施設等の修理・修繕等を行い、快適で安全・安心な学校環境の整備を進める。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 ① 平成30年度においては、幼稚園・小中学校(交流センター)・共同調理場・教員宿舎等、緊急的なものを優先し修理・修繕等を行ってきた。 ② 平成30年度の国庫補助事業(危険改築、不適格改築工事)においては、竹富町公立学校施設整備事業長期計画を基に、波照間小学校校舎改築工事、鳩間小中学校校舎改築工事を行い、H31.3.31に完成した。 なお、繰越事業となった波照間中学校校舎・施設改築工事は令和元年中に完成予定である。		
	B	【課題等】 ① 多くの修理・修繕箇所の要望があり、予算を確保しながら学校環境の整備を図るとともに、本町公立学校施設整備事業長期計画を基に、安心・安全・快適な学校施設など教育環境の充実に努める必要がある。 ② 公共施設等管理計画に基づき、建物の長寿命化にむけた個別施設計画の策定に必要な情報の整理が急がれる。	
外部評価	・学校等施設の安心安全は、必要不可欠である。本町の長期計画に基づき、予算確保を含め、より一層の奮闘を期待する。		
B			

平成30年度 教育事務点検総合評価

■教育委員会の機能充実

総合評価	〔 B 〕	<ul style="list-style-type: none"> ・教育行政を担う教育委員会は、教育を行うための諸条件の整備、地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図る取り組み等々、適正に執行している。 ・幼稚園担当指導主事を配置し幼児教育への重要性を確認できたことは一歩前進である。
1 教育委員会の概要	〔 B 〕	<ul style="list-style-type: none"> ・「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正(平成27年4月1日)され4年目を迎える。すべての地方公共団体に「総合教育会議」が設置され、町長は、教育委員会と教育政策の方向性を協議及び調整することが必要となった。教育の政治的中立、教育行政の安定確保、国、県近隣市町村との協力連携等々教育委員会のあり方について協議すべく開催に向け確認していただきたい。
2 教育委員会の概要と会議の状況	〔 B 〕	<ul style="list-style-type: none"> ・定例会(奇数月)、臨時会(随時)の開催については、適正と判断する。 ・次年度以降も「総合教育会議」を開催すべく確認していただきたい。
3 教育委員会の情報収集状況	〔 A 〕	<ul style="list-style-type: none"> ・各島々への学校訪問、学校地域行事への参加、視察研修、各種研修会等々へ教育長をはじめ、教育委員、事務局職員が、こまめに参加し現場の声を聞いたり、対応したり、また、自主研鑽に努め、与えられた役目をしっかり果たしている事は、高く評価できる。
4 教育委員会事務局の組織及び職員配置	〔 B 〕	<ul style="list-style-type: none"> ・組織及び職員配置に関しては、町長部局との調整の中、効率的に機能していると考ええる。 ・事業が多種にわたり多忙を極め、内容によっては主管の移譲、職員配置など検討が必要な部分もあるかと思慮する。
5 教育行政	〔 A 〕	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5ヶ年間の教育費の推移を確認すると、平成26年度の10億3千万余から平成30年度17億9千万余とその伸び率は高い。このことから、町が教育にそそぐ力の比重がうかがえる。 ・教育費の歳出は、適正に処理されていると確認する。町全体の財政状況が厳しい事は理解するが、次年度以降も計画の基、適正な予算の確保に向け努力して戴きたい。

■幼稚園・学校教育の充実

総合評価	〔 A 〕	<ul style="list-style-type: none"> ・教育主要施策体系に基づき幼稚園、小学校、中学校教育のつながりがしっかりとなされ、行政、学校、家庭、地域の連携の基、「夢をもち、未来にむかってたくましく生きる『ばいぬ島子』の育成」がなされている。 ・小学校・中学校における平成30年度全国学力学習状況調査において小学校は、全国平均並にあり中学校は、全科目において全国平均を上回っていることは、高く評価できる。
------	-------	--